

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年2月14日

【評価実施概要】

事業所番号	1172400556
法人名	有限会社 けいあい商会
事業所名	グループホームけいあい
所在地	〒350-0463 埼玉県入間郡毛呂山町前久保南4-16-1 (電話) 049-276-6751
評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成21年2月12日

【情報提供票より】(平成20年12月26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年9月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 1人, 非常勤 11人, 常勤換算 7.6人	

(2) 建物概要

建物構造	木造造り
	1階建ての1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	16,000円+実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	500 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	0 円
または1日あたり 1,500円				

(4) 利用者の概要(12月26日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80 歳	最低	70 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	埼玉医科大学、長瀬クリニック、根岸内科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは駅から近く、住宅街の中にある1ユニットのグループホームである。ホームのすぐ近くには緑や花のある大きな公園があり、利用者は四季折々の変化を感じながら日常的に散歩している。公園でベンチに腰を下ろしてお茶を飲んだり、散歩中の犬と親しんだり、ごみ拾いをしたり、さらには地域の人達と交流している。ホーム内はすっきりとしていて清潔感があり、家庭的な雰囲気である。利用者の表情は明るく、職員と楽しそうに笑顔でゆったりと生活している。また、職員同士もチームワークが良く、お互い助け合い、利用者の立場に立ったより良い介護が出来るように努めている。法人内の他のグループホームが近くにあることから、一緒に地域の行事等に参加して、利用者同士が交流しながら楽しんでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価での改善課題は3点である。評価の意義の理解と活用については、職員会議で話し合い理解に努めている。職員を育てる取り組みについては、受講した研修資料をいつでも閲覧できるようにし、また法人内の他のグループホームとの交換実習の検討もしている。重度化や終末期に向けた方針の共有については、職員会議で話し合い共有している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価については管理者がまとめて職員に確認を得るように努めているが、全職員が評価を十分に理解して活かすまでには至っていない。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は昨年3月に実施して以来開催されていない。3月までに開催したい意向である。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月1回、利用者の近況報告を写真と一緒に郵送している。面会時には家族から話を聞くように努め、さらに家族会を年2回開催し意見を聴いている。また、運営推進会議には全家族に参加を呼びかけている。出された意見については十分に話し合いをし対応している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、地域の盆踊り大会や行事に楽しく参加している。また、隣接の公園には積極的に出かけて地域の人達と交流し、公園のごみ拾いや地域の人達と世間話をしたり、ホームにも遊びに来てもらうこともある。ボランティアの参加も多く、中学生の総合学習の受け入れもやっている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	緑に恵まれた環境の中で共に寄り添う温かい介護を目指す理念を掲げ、さらに運営方針の中に地域との結びつきを盛り込み、地域との関係を深めている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関に理念を掲示するとともに、職員の名札にも理念を記載して実現に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の盆踊りや行事などにも参加したり、隣接の公園で地域の人達と交流が盛んに行われている。また、ボランティアの参加や中学生の総合学習の受け入れ等も行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価実施後は、職員会議で話し合い改善に努めた。今回は管理者が自己評価を作成して職員に確認を得るように努めたが、全職員が取り組むまでには至っていない。		外部評価の意義をより理解して、全職員が参加して自己評価を作成することが望まれる。また、評価された項目について改善シート等を作成し、具体的な改善に取り組むことを期待したい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、昨年3月に実施して以来開催されていない。3月までには開催したい意向である。		幅広い立場の人を再度集めて、活発な意見を出し合えるような会議を速やかに再開し、定期的開催していくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	本部を通して町と連携を取っている。また、事業者連絡協議会などでも連携を取り、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回請求書と一緒に手書きの近況報告書と写真を郵送している。また、家族が来訪した際は利用者の状態を報告し、緊急時には電話連絡をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会や面会時に近況報告をして、意見や苦情を聞くように努め、運営推進会議には全家族に参加を呼びかけている。出された意見については十分に話し合いをして対応している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職者が少なく職員は定着している。利用者には退職や異動について特に話ほしないが、職員全員が話し合い利用者にダメージを与えないように努めている。家族には面会時に話したり、ホーム便りで報告している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を年に4回～5回受けている。また、受講した研修資料をいつでも閲覧できるようにしている。今後、内部研修の充実や法人内の他のグループホームとの交換実習の検討をしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町の居宅介護支援事業者部会や事業者連絡協議会などに参加している。また、西部地区グループホーム協会や県のグループホーム協議会に参加し、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居する前に、本人に見学や体験入居をしてもらうこともある。入居した利用者にはアセスメントを十分行い、特に入居後1か月間は声かけを多くして全職員で見守っている。また、馴染めるように家族に協力してもらい相談しながら工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者に料理や農作物の作り方、戦争の話等を教えてもらうことが多い。職員は第2の家族と思って利用者と一緒に生活を楽しんでいる。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は、夕方やお茶の時間などタイミングを見ながら、ゆっくり腰を下ろして利用者の話を聞き、思いや意向の把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族の希望や職員の意見を聞いて計画担当者が介護計画を作成し、出来上がった介護計画をケア会議にかけて職員に確認してもらっている。また、家族にも確認してもらうようにしている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>作成された介護計画を全職員に配布し、共有した介護を行って、その結果をモニタリングの欄に記入してもらい、ケア会議で話し合っている。ケア会議の話し合いで6か月に1回の見直しをするほか、急変時は介護計画の見直しを随時行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ショートステイの受け入れも行っている。その他、受診支援や買い物などの希望がある時は外出支援をするなど、要望に応じて柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1度家族の協力を得てかかりつけ医に受診している。家族が都合が悪い時は職員が支援しており、受診時には家族と連携を十分に取るようにしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時、または変化のあった時は終末期の対応等について家族と話し合っている。現段階の方針としては「食事摂取が難しくなった場合、ホームでの生活は難しい」ことを説明し共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者に優しく丁寧な言葉かけをしており、職員からは利用者に対して「有難う」と言う言葉が多く聞かれた。書類は事務所内の目に触れないところに保管されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は、自分のペースでゆったりと生活している。食事中も利用者がゆっくり食べられるよう、職員はそばで温かく見守っている。また、買い物などに出かけたい場合は希望にそうようにするなど、本人のペースと要望を尊重しながら支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者も料理の準備や盛り付けを職員と一緒に楽しみながら行っている。食堂には静かな優しい音楽をかけて、ゆったり楽しく食事をとっており、食事の後片付けも楽しそうに職員と一緒に行っていた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週3回の入浴を行い、他の日は足浴をしている。夜間の入浴も含め希望に応じて支援することも可能である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理、洗濯物たたみ、掃除、菜園作り、将棋など利用者が得意とする分野で力を発揮できるように支援している。皆で歌を歌って楽しい時間を過ごしたり、また、ホームでのイベントも多く計画している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の公園に出かけて散歩を日常的に行っている。ドライブ、買い物、花見、外食、地域行事への参加など戸外に出かける支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には鍵をかけているが、利用者の外に出たい様子が見受けられた際は一緒に付き添うなどして、外に出られるように支援している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の協力を得て、避難訓練、消火訓練を行っている。また、消火器や火災報知機を設置するとともに、自治会を通して地域の人との協力体制もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算が行われている食材の配達を利用しており、利用者の好みで献立を変更することもある。食べられない時は好きなものを作ってあげたり、食べやすく工夫するほか、医者に相談したりしている。また、月に2回体重測定を実施している。なお、食事、水分摂取量についても記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感のあるすっきりとした空間である。写真や季節のものを飾り、温かく家庭的な雰囲気の中で居心地良く過ごせるようにしている。懐かしい童謡が静かに流れていた。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みのものを自由に持ち込むことができ、仏壇を置いたり写真や花などを飾って、ゆったりと安心して過ごせるようになっている。		